

## ニガウリの半促成作型における優良系統‘か交5号’の育成と主な特性

市 和人・東郷弘之・江口 洋<sup>1)</sup>  
(鹿児島県農業試験場・<sup>1)</sup>鹿児島県農業試験場熊毛支場)Kazuto ICHI, Hiroyuki Togo and Hiroshi EGUCHI :  
A New Bittergourd Cultivar 'Kakou5gou' in Semi-forcing Culture

近年、ニガウリは健康野菜として需要が伸び、南九州を中心に全国的に栽培面積が増加している。鹿児島県でも栽培面積が急増し、1998年度の県全体の栽培面積が90ha、2001年度の経済連取り扱いの栽培面積が102haに達している。

しかしながら、鹿児島県ではこれまで統一された品種がなく、各産地で独自に種苗を確保してきた。そのため、産地ごとに果実の形状等が異なり、県内統一の優良品種育成が望まれていた。そこで、半促成作型で、果実品質が優れて収量性が高い優良系統‘か交5号’を育成した。

## 1. 育成の経過

1995年度以降、県内外から遺伝資源を収集し、有望系統の選抜と固定化を図り、1997年度に果実の形状の優れた‘か系2号’を育成した。しかしながら、‘か系2号’は中生で、初期の節成性がやや弱いため、早生で節成性の強い系統の選抜と固定を図った。1998年度から、‘か系2号’と早生で節成性の強い系統の交雑組合せ検定を行い、有望組合せを選抜した。2000年度の生産力検定と現地適応性検定試験の結果、種子親に果実の形状の優れた‘か系2号’を、花粉親に早生で節成性の強い‘吉田系後代’を用いたF<sub>1</sub>系統‘か交5号’を優良系統として育成した。

## 2. 特性の概要

育成した‘か交5号’は草勢は強く、主づるの太さはやや細く、節間長はやや短く、側枝の発生は多い。葉色は濃く、葉の大きさは中位である。やや早生で、主枝の第1雌花の着生節位は低く、雌花の子房はやや長く、着果習性は中間型で、雌花は主枝と子づるに同程度着生する。雌花の着生はやや多く、雄花の着生もやや多い。果実は肩張りの紡錘形でやや太く、果実の長さはやや長い。果皮色は濃緑色で、果実の尻部はやや尖る。こぶ状突起は尖って小さく、条状突起は短い。果肉色は濃緑色で苦みは中位である。

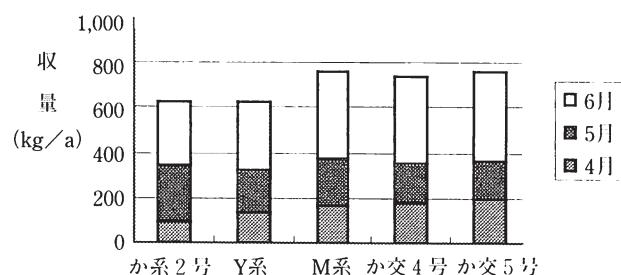
2000年度に無加温の半促成作型で生産力検定と現地適応性検定を行った結果、主要産地で栽培されている系統（‘か系2号’、‘Y系’、‘M系’）より果実品質が優れ、初期収量、規格別収量では単価の高い2L～M級収量、および総収量が多く、収量性が優れた。

## 3. 栽培上の留意点

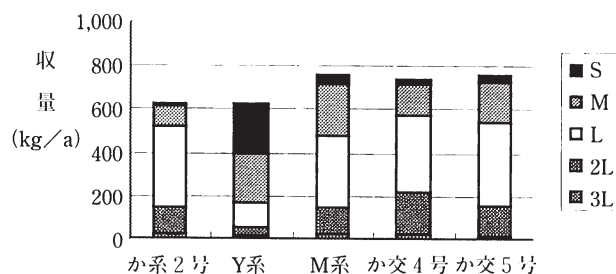
育成系統は鹿児島県の無加温の半促成作型に適する。



写真1 ‘か交5号’の果実



第1図 時期別A品収量（生産力検定試験）



第2図 規格別A品収量（生産力検定試験）

第1表 果実品質の主な特性と総合評価（場内、生産力検定試験、2001.1.26播種、2.21定植）

系統名	果実の形	果実の長さ	果実の太さ	肩部	尻部	果皮色	先白	総合評価
か系2号（対照）	紡錘	27.1cm	51.3mm	中	中	6.0	無	3.6
Y系（比較）	やや短円筒	21.5	55.2	張り	中	5.3	有	3.7
M系（比較）	紡錘	26.2	52.3	やや張り	中	5.7	有	3.9
か交4号	紡錘	27.4	52.1	やや張り	やや尖り	6.0	やや有	4.4
か交5号	紡錘	27.2	52.1	やや張り	中	6.4	無	4.7

註) Y系・M系：産地の優良系統、果皮色：濃緑7>淡緑1、総合評価：良5>不良1